

51ページ  
(1) 検討経過

飯田文化会館が果たす役割とは？  
7月19日の第2回ワークショップでは5つの順に分かれ、文化会館のこれまでで果たしてきたもの、これから果たしたいものといった切り口から、その役割について考えました。  
その中では、「市民の誇りと自信につながる場」「お茶を飲む感覚で気軽に立ち寄ることのできる場」「子どもたちが世代を越えて出会い、そこを好きになる」「これまでの伝統と新しい文化をつなげることで、特別ではなく市民の日常に寄せた機能」「都市圏に行かなくても様々な文化に触れることができる」といった意見が出されました。  
次回9月22日の整備検討委員会で、これまでの2回のワークショップで出された意見をもとに、新しい文化会館の基本理念について考えていきます。

整備検討委員長からの言葉

新しい文化会館建設に向けて、市民のみならずと一歩ずつ  
新しい文化会館をつくるにあたって、この検討委員会でどんなことを行い、どんなことが話題になっているか知らずとも、「自分だったらこう考える。こうなったらいいんじゃないか」と、色々な地域の様々な年代の方々の関心を寄せていただけたらと思っています。もちろん、検討への参加も大歓迎。市民全員が納得できることは嬉しいし、できればそれに近づいた「文化会館はこうあるべき」という状態にしていきたい。市民のみならずと一歩ずつ進んでいきたいと思います。



整備検討委員長 塩澤哲夫 さん

19~  
20ページ  
基本方針

飯田文化会館 今昔物語 Vol.1

今から50年前の1972年(昭和47年)4月29日に竣工を迎えた飯田文化会館。建設中の写真からは、現在の周辺地域がいかに変化してきたかを感じることができます。こけら落としは花柳楼兵衛舞踊団。当時は結婚式も行われていました。



あなたの文化会館の思い出を、このニュースレターで紹介しませんか？  
写真と一緒に、撮影年月とコメントを書いて文化会館事務局までお持ちください(写真のコピーでも可)。写真データがある場合は、メール送付でも受け付けます。件名を「思い出の写真」と表記して、お名前と連絡先(宛先可視なメールアドレス、電話番号)を必ず記名の上、お送りください。

飯田文化会館「思い出の写真」宛 [ibunka@city.iida.nagano.jp](mailto:ibunka@city.iida.nagano.jp)

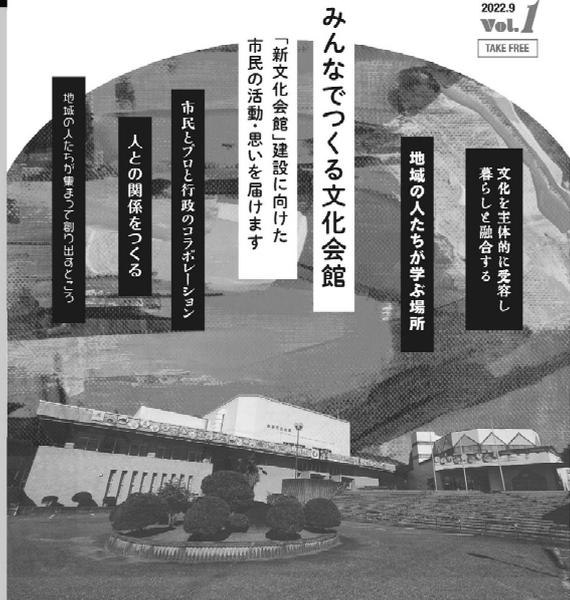
発行: 令和5年9月 制作: 飯田文化会館 〒399-0055 長野県飯田市中央町4-1-1 TEL: 0266-23-3852 FAX: 0266-23-3853  
飯田文化会館の整備検討に関する資料は、飯田市のWEBサイトでご覧いただけます。 <https://www.city.iida.jp/> 飯田文化会館

TOWARD THE NEXT STAGE

みんなで作る「新しい文化会館」の取組状況をお届けします

飯田文化会館 ニュースレター

2022.9  
Vol.1  
TAKE FREE



みんなで作る文化会館

「新文化会館」建設に向けた市民の活動・思いを届けます

地域の人が学ぶ場所

文化を主体的に受容し暮らして融合する

地域の人が学ぶ場所

文化を主体的に受容し暮らして融合する

51ページ  
(1) 検討経過

Outline  
IIDA cultural hall

自分たちで文化を創る時代に向かって  
はじまりました！ 新文化会館整備検討委員会

「舞台芸術の鑑賞と創造」「人形劇のまちづくり」の2つを柱としてきた飯田文化会館。現在の建物が建設されてから、今年でちょうど50年が経ちます。建物・設備の老朽化や、市内にある3つのホールのうち飯田市民館ホールが廃止されるなどの状況も踏まえながら、令和9年以降の竣工を目標とした「新しい文化会館」建設に向けた整備検討委員会が、この6月から発足しました。

8ページ  
② 飯田文化会館の施設概要

飯田文化会館 50年のあゆみ

飯田文化会館は、市民文化の向上と福祉の増進のため昭和47年4月29日に開館。当初は貸館事業が中心でしたが、平成元年のオフィスセミナーの開始や人形劇フェスタを中心とした人形劇文化の盛り上がりも大きな力となり、市民と行政が一体となり、自分たちで創造し活動する場所へと、歩んできました。

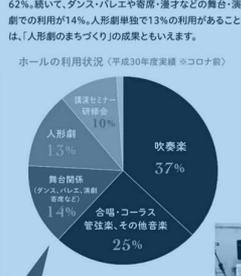


飯田文化会館の利用状況

飯田文化会館をはじめとする文化団体や、市民による様々な文化事業の実行委員会のほか、多くの団体の活動拠点として利用されています。また、吹奏楽など地域の小中学校の子どもたちや高校生が利用していることも特徴となっています。

利用種別みると、コロナ前の平成30年度は、吹奏楽、合唱・コーラス、管弦楽などの音楽関係の利用が全体の62%。続いて、ダンス・バレエや音楽・演劇などの舞台・演劇での利用が14%。人形劇単独で13%の利用があることは、「人形劇のまちづくり」の成果ともいえます。

ホールの利用状況(平成30年度実績 ※コロナ前)



今回、市民アンケートの結果からは「文化会館を全く利用していない」という課題も見えてきました。

整備検討委員会でのワークショップ はじまる

整備検討委員会は、文化会館の利用団体や教育・文化・福祉分野でそれぞれ活躍する団体、公募による委員などの市民委員と、ホール運営に携わる専門家、大学教授などの学識者、全19名で構成されています。委員では、新しい文化会館の基本理念を考えるため、まずは2回のワークショップを行いました。



NEWS & TOPICS  
IIDA cultural hall

Report  
6/10 Fri. 7/19 Sat.  
WorkShop  
Vol.1,2

「飯田の文化」って？

6月10日開催の第1回ワークショップでは、「飯田の文化とは何か」をテーマに3期に分かれて意見交換と発表をしました。ワークショップでは、「人との関係をつくる」「地域の人が学ぶ場所」「市民とプロと行政のコラボレーション」「地域の人が集まって創り出すところ」「文化を主体的に受容し、暮らしと融合する」などの意見が出され、文化会館の歴史や、概念に関するキーワードがみえてきました。



ワークショップで出されたキーワード(アンケート含む)

Table with 4 columns: Cultural activities, Learning places, Heartful places, and Diverse places. It lists various activities and concepts like 'learning', 'participation', 'collaboration', and 'citizen-led'.

6ページ(3)  
「飯田に…」

10ページ(2)  
飯田文化会館と…

全国的には、行政が民間に委託して管理運営されている施設が増えていますが、飯田文化会館は開館当初から、飯田市が直接管理する直営方式。「市民とプロと行政の協働関係が絶妙」という評価の声もあって、実は特徴ある運営形態なんです！

5ページ(1)  
市民と共に  
29ページ(2) ①  
運営方式の…



7月19日の検討委員会・ワークショップの様子

51ページ (1) 検討経過

Report Music Live Discussion

10/8 Sat 「南信州ライブ×高校生ライブ」 in 結いスクエア
～南信州の魅力音楽を届けよう～
@丘の上 結いスクエア 2階 多目的ホール

南信州広域連合が主催し、飯田文化会館と飯田市民館が共催したこのイベント。この日、飯田高校ギター班と飯田県立高校のフーリング部の高校生11人が「南信州の魅力音楽を届けよう」をテーマに下條村出身のシンガーソングライター・てんをゲストに迎え、ライブで交流を深めながら、高校生と地域に対する思いや将来について意見を交わしました。

現任、山梨県富士吉田市に暮らすてんは、伊那谷の方言を歌詞に盛り込んだ「かしやほのおいしま」を演奏。「方言は暮らしや育った環境の余りで反映されている。外に出たから、この地域の良さもわかる」と話し、良い音色と出会いの経緯を話した時に、一首曲ができやすい。南信州で生まれたのは山があること、心を動かされるものに触れること、感動することの大事さについて話しました。

童謡交換会では、地元で暮らす良さについて人と人の距離が近く温かい「自然が多い人々や自然、食などに対する意見がある一方、「若者が行きたくなるような場所が欲しい」など、商業施設やライブイベントなどの少なさを指摘する声もありました。

コーディネーターを務めた高原利彦さんは、高校生に対して「今住んでいる場所が好きで、大切にしたいと思った時になぜ好きなんだろう？」と一度考え、そこからぜひオリジナルの歌を作ってみて欲しいと、アドバイスを送りました。



飯田文化会館 今昔物語 vol.2
文化会館は、利用の多くがホールと会議室となつていますが、1972年(昭和47年)に開館した当時のパンフレットを見てみると、現在は用途が変更になった館内の設備が紹介されています。管理棟2階には、神式の結婚式場や宴会室があり、屋上には南アルプスを望む屋上庭園もありました。当時はこれらの場所も多くの人々が利用していました。

あなたの文化会館の思い出を、このニュースレターで紹介しませんか?
写真と一緒に、撮影年月とエピソードを書いて文化会館事務局までお持ちください(写真はコピーでも可)。写真データがある場合は、メール送付でも受け付けます。件名を「思い出の写真」と記述して、お名前と連絡先(可能なメールアドレス、電話番号)を必ず記入の上、お送りください。

発行: 令和5年11月 発行: 飯田文化会館 〒395-0051 長野県飯田市高野町5-4-1 TEL 0265-23-3552 FAX 0265-23-3553
新文化会館の整備検討に関する資料は、飯田市のウェブサイトでご覧いただけます。 https://www.city.iida.lg.jp/

TOWARD THE NEXT STAGE

みんなで作る「新しい文化会館」の取組状況をお届けします

飯田文化会館 ニュースレター

市民ワークショップ 飯田の文化をともに考える BUNKAミーティング
2022.11 vol.2 TAKE FREE

第3回 飯田市新文化会館整備検討委員会

「南信州ライブ×高校生ライブ」 in 結いスクエア
～南信州の魅力音楽を届けよう～
「だれもが集い、つくり、伝える、感動の飯田ひろば」
「生活の中に受け入れられる施設って？」
「なぜ、文化会館を活性化しなければならないの？」
「他にない、飯田特有の雰囲気を感じたい」
「V字開通によって訪れた観光客も楽しめる場所になる」と良い
「他にない、飯田特有の雰囲気を感じたい」と良い

18ページ 基本理念



51ページ (1) 検討経過

Report Workshop BUNKA Meeting

9/4 Sun 飯田の文化をともに考える BUNKAミーティング @橋南公民館

りんご並木が実行者天国となりまちど芸術祭で賑わった9月4日、りんご舎内の橋南公民館で参加者20名によるBUNKAミーティングを文化会館が主催しました。参加者の多くは若者で、音楽活動を行う高校生たちに加え、中心市街地の研究で飯田市を訪れた県外からの大学生4名も参加。ここではワールドカフェ方式\*で市民ワークショップを行い、新しい文化会館に対するさまざまな意見が出されました。



「自分たちだったらどうしたい?」自由な意見・本音を、ざっくばらんに
冒頭では、まちど芸術祭を主催する高原利彦氏(HIDA WAVE 代表/新文化会館整備検討委員会)から「今は誰もが意見を考えを積極的に言える時代。これからの時代は、どんな文化会館であってほしいか、どんなことがしたいか、自分たちの意見・思いを自由に伝えてほしい」との言葉があり、参加者は5グループにわかれ、主に2つのテーマから個々の意見を交わしました。

Theme 1 こんな文化会館なら行ってみたい!
Theme 2 飯田の文化芸術で、やりたいこと・活動
4つの検討ポイント
1 みんな
2 a 集う
b 創る
c 伝える
d 感動する
3 飯田: 飯田という独自性
4 ひろば: ひろばという社会的、空間的概念

9/22 Thu 第3回 飯田市新文化会館整備検討委員会
飯田らしさを大切に 一新文化会館の基本理念(素案)が話し合われるー

9月22日に開催された第3回新文化会館整備検討委員会では、これまで話し合われてきた「飯田の文化とは何か」「飯田文化会館が今まで果たしてきた役割」と、これから果たしていく役割は何が?というテーマで出された意見等をもとに、新しい文化会館の基本理念について話し合いが行われました。

これまでのワークショップや市民アンケートで出されたキーワードから、次のように飯の基本理念を設定し、意見を交わしました。

飯に設定された 新しい文化会館の基本理念 (9/22 検討素案)

みんなが集い、創り、伝え、(共に)感動する「飯田」文化芸術 ひろば

4つの検討ポイント
1 みんな
2 a 集う
b 創る
c 伝える
d 感動する
3 飯田: 飯田という独自性
4 ひろば: ひろばという社会的、空間的概念

検討委員からは、
「みんな」という言葉は「色んな思いや考えを持った人たち」という意味で表現できると、より馴染み心ではないか
「様々な文化芸術」に触れたり創造発信ができる場である一方「いろんな人が気軽にそれぞれ時間を過ごすことができるイメージも必要だと思う
「ひろば」は自然と人が集う場でもあり感動を共有する場にもなるなどの意見が出され、一つひとつの言葉の持つ意味やその投入方を掘り下げられました。

51ページ (1) 検討経過

18ページ 基本理念

6ページ (3) 「飯田に…」

19～20ページ 基本方針

21～23ページ 3実施する事業の方向性



# TOWARD THE NEXT STAGE

みんなでつくる「新しい文化会館」の取組状況をお届けします

## 飯田文化会館 ニュースレター

2023.02  
Vol. 3  
TAKE FREE



18~  
20ページ  
基本理念  
基本方針

令和4年11月25日、飯田市劇場にて、新文化会館整備検討委員会が開催されました。同委員会はこれまでに3回開催され、飯田の文化や文化会館の役割を考える中で見えてきた30のキーワードをもとに「みんなが集い、創り、伝える 感動の 飯田ひろば」という仮の基本理念の設定まで進んできました。第4回の検討委員会は、リニア時代の新しい文化会館のあり方をどう考えたいか、今後の基本構想を議論していくための学習会として開催しました。

### 第2部 パネルディスカッション [特別対談]

#### 新しい文化会館の多機能性・専門性

施設機能の専門性と多機能性については、施設規模との相関関係が話題に、草加氏は「必ずしも大きな観客数が必要な」と質の高い施設事業が得意なわけではなっていないとして、例えば数人のホールの中に専門性を持つ小ホールを持つなど、ある程度重心を持った多機能ホールをつくるという考え方も選択肢の一つではないかと話しました。



#### 「創客」の視点からのアプローチ

草加氏は、劇場という場所が本質的には市民が創造する場所であることを前提としつつ、特約的距離というメリットを戦略的に活用しながら、その地域の人々にとって芸術鑑賞がライフスタイルの一部となるような、「創客」の視点からのアプローチの重要性を訴えました。小澤櫻子氏も「持続可能な施設の運営といったところで、利用者を増やしていくのと同時に観客を増やしていく創客というのが、車の両輪として本当に大切だ」と話し、市民が創造する環境をいかに支えるかという観点とともに、普段舞台芸術に触れる機会が少ない人々へのアウトリーチ活動やワークショップなど、創造と鑑賞をともに育てていくことの大切さを強調しました。

24ページ  
(2) 施設機能の整理

22ページ  
(4) 普及事業

### 特別対談のPoint 佐々木宗平 学議委員



- Point 01 リニア時代には、「まち、賑わい、人をつくる」といった役割を劇場にどう持たせるかが重要
- Point 02 リニアによる時間短縮を、単に人を呼ぶ手段だけでなく、新しい文化会館の創造活動などに生かしていく視点が必要
- Point 03 地域の文化施設として飯田周辺エリアを主対象とし「主目的ホール・専門的小ホール」とする考え方もある。取りすぎない機能は時間短縮距離を活用して別途供給する視点も必要

「ひろば」という言葉は、最もクリエイティブな空間のことであり、と話す草加氏。新文化会館が、新時代を切り拓く飯田ならではのオンライン上の舞台芸術のひろばとなるよう、整備検討委員会は、これからのいよいよ基本構想の検討に入ります。



発行：令和5年2月 制作：飯田文化会館 〒399-0051 長野県飯田市高野町5-5-1 TEL 0265-23-3552 FAX 0265-23-3933  
新文化会館の整備検討に関する資料は、飯田市のWEBサイトで公開しています。 <https://www.city.itsuka.jp/> 飯田文化会館 編集

51ページ  
(1) 検討経過

### 第1部 基調講演

テーマ 全国事例から見えてくる新しい時代の地域の公共場の姿  
講師 公益社団法人 全国公立文化施設協会 アドバイザー 草加敏也 氏  
顧問 国土交通省文化庁、文部科学省文化政策課、経済産業省文化政策課

#### 新しい公共場は「ひと」まち「賑わい」をつくる

講師の草加敏也氏からは、全国の公設劇場・音楽堂等の施設数の多さや時代とともに変化してきた役割、また、岡山市に新しくオープンし自身が劇場長を務める岡山芸術創造劇場の整備プロセスやコンセプト、機能等に触れながら、新文化会館のあり方を考える上で重要な考え方についてお話いただきました。その中で、草加氏は「劇場は常に進化を続ける。変化を促すものです。ずっと同じサービスを提供しているのではなく、成長する施設なんです」と話します。

公共劇場の果たす役割が、①地域の市民に平等・均等に利用の機会を提供する機能から、②優れた音楽芸術や舞台芸術を届へいし、芸術文化に触れる機会を増やす機能へ、そして、これまで音楽や舞台といった芸術文化に触れてこなかった市民に振り向いてもらうための交流活動を通じて、そこから「ひと」まち「賑わい」をつくる機能へと変化してきていることを具体的な事例を交えて説明されました。

さらにこの視点に立った時、施設機能を考える上で、「地域性と広域性、専門性と多機能性」この2つの軸の中で重心をどこに置くかという考え方が重要、仮に設定した新文化会館の基本理念の中に含まれる言葉、特に地域を意図した「飯田」や「ひろば」といった言葉を据えてようとしているのか、そのためにどんなことをしなければならぬのか、そのための機能は何かをしっかりと考える必要がある、という問題認識がされました。



- #### 公共場の果たす役割の変化
- 1 地域の市民に平等・均等に利用の機会を提供する機能 (~30年前まで)
  - 2 優れた音楽芸術や舞台芸術を届ける機能、芸術文化に触れる機会を増やす機能 (~10年前まで)
  - 3 「ひと」まち「賑わい」をつくる機能 (〜現在)
- 創造発信型の劇場

仮に設定された  
新しい文化会館の基本理念 (11/25 時点案)  
みんなが集い、創り、伝える 感動の 飯田ひろば



### 第2部 パネルディスカッション [特別対談]

テーマ リニア時代の飯田にふさわしい「新飯田文化会館のあり方」  
進行 佐々木宗平 学議委員 明海大学教授/博士(一級建築士)/米国公認建築師  
草加敏也 講師  
小澤櫻子 学議委員 上野市立文化芸術センター(ランドマーク)プロジェクトマネージャー  
山元 浩 学議委員 名古屋フィルム・メディアセンター 企画部長 音楽事業部長  
塩澤晋夫 整備検討委員長

#### リニア時代の新文化会館に向けて -地域性と広域性、専門性と多機能性-

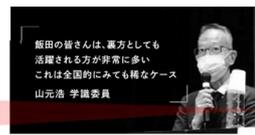
特別対談は、草加氏からの基調講演を受けて、2つの論点で対談が進みました。1つは新文化会館の役割として「ひと」まち「賑わい」をつくるという役割でも想定される時に、東京や名古屋との特約的距離が短縮されるリニア時代に地域性と広域性というものをどのように捉えたいかという1つは、創造と鑑賞のバランスにも関わって施設機能としての専門性と多機能性をどう考えたいか、それぞれ立場のバリエーションから意見が出されました。

#### 飯田ならではの文化の創造と発信 -オンラインワンを目指す-

まず、地域性を考える視点として山元浩氏からは「飯田の皆さんはそれを愛するだけでなく、時には出演者となって舞台に立つとか、皆さんが劇場の事業の裏方としても活躍される。そういう方が非常に多い。これは全国的にてもまれなケースであって、他地域ではなかなかない」と話し、劇場の活性化に向けて市民が動き出すという飯田ならではの土壌を活かしながら、これまで文化会館に関わることのなかった方たちも巻き込んだ文化会館のあり方を模索していくのではないか、との重要性を話しました。

#### 時間的距離の短縮を戦略的に活用していく

一方で広域性という観点からは、「リニア中央新幹線が開通することで、東海へ都市部からたまたまのお客さんを感じというのは本来あり得ないのではないかと」いうことが共通意識として出されました。その上で、リニア中央新幹線の効果による特約的距離の生かす方について、草加氏は「首都圏、あるいは中京圏をうまく使っていくための手段として、この時間軸を使おう。これが一つの戦略的な手段じゃないか」と話し、単に観客に来てもらうことを待つのではなく、短くなった時間をどう生かすかという視点に立ちながら、地域の舞台芸術の振興に有効な人材の活用(招致)や創造活動のあり方を考えるという、リニア時代の新たな視点を提示されました。



5ページ (1)  
市民と共に

6ページ (3)  
「飯田に…」

19ページ  
(3) 創る

**飯田文化会館 今昔物語 vol.3**

2月5日、NHKのど自慢が25年ぶりに飯田文化会館で開催されました。前日の予選を勝ち抜いた18組の皆さんが熱唱。司会的小田切アナウンサーやゲストの水輪おかりさん、北島兄弟の北山たけしさんと大江裕さんの掛け合いで会場は大いに盛り上がり、その様子は全国へ発信されました。

過去を振り返ると、文化会館がオープンした年の昭和47(1972)年5月7日放送時には、ゲストに都はるみさん、美川憲一さんを迎え、飯田で初めてのど自慢を開催。平成10(1998)年11月1日には、瀬川瑛子さんと山川豊さんをゲストに迎え、20組が歌唱を披露しています。

電波に乗って全国へPR  
『今昔』のど自慢など公開

飯田文化会館 昭和47(1972)年 5月8日  
広報いいた 平成10(1998)年 12月1日号

**TOWARD THE NEXT STAGE**

みんなでつくる「新しい文化会館」の取組状況をお届けします

飯田文化会館 **ニュースレター**

2023.04  
Vol. 4  
TAKE FREE



19~20ページ  
基本方針

**あなたと文化会館の思い出を、このニュースレターで紹介しませんか?**

写真と一緒に、撮影年月とエピソードを書いて文化会館事務局までお持ちください(写真はコピーでも可)。写真データがある場合は、メール送付でも受け付けます。件名を「思い出の写真」と表記して、お名前と連絡先(宛先可能なメールアドレス、電話番号)を必ず記入の上、お送りください。

飯田文化会館「思い出の写真」係 宛 [ibunka@city.iida.nagano.jp](mailto:ibunka@city.iida.nagano.jp)

**toi toi toi!**

**飯田文化会館情報誌「toi toi toi!」創刊**

飯田の芸術文化が育まれてきた土壌や背景を振り返りながら、過去と現在と未来を繋ぐための情報誌を創刊。「トイトイトイ」と発信するこの言葉は、世界中の舞台上で使われている幸運や成功を祈る「おまじない」。「toi」愛の方へ、私(い)の方へ、飯田(い)の方へ、という意味も込められています。

この情報誌では、飯田の芸術文化に携わる方や地域の文化を支えてきた方、新しい時代を担っていく方などの活動をご紹介します。文化会館や公民館、図書館、市役所などで配布中。ぜひ手にとってご覧ください。

飯田文化会館では、情報誌の制作や広域活動にご協力いただける方も募集しています。ご興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。

85 版元ページ

発行：令和4年4月 制作：飯田文化会館 〒395-0051 長野県飯田市高島町5-5-1 TEL 0265-23-3552 FAX 0265-23-3533  
新文化会館の整備検討に関する資料は、飯田市のWEBサイトで公開しています。 <https://www.city.iida.lg.jp/> [新文化会館] 編集

51ページ  
(1) 検討経過



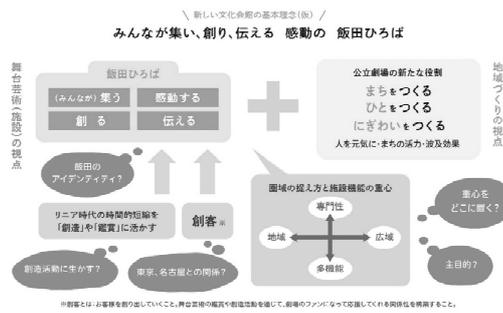
**Report Workshop Vol.5**

**2/3 Fri 第5回 飯田市新文化会館整備検討委員会**

つくるのではなく できていくことを大切に  
第5回整備検討委員会を2月3日に開催。前回の学習会でまとめられた3つのポイントを踏まえながら「新しい文化会館の活動内容」について話し合い、基本構想を検討しました。

活動内容を考える3つのPoint (11月25日の学習会より)

- 01 戦略的活用 ..... 「まち、賑わい、人をつくる」という役割をどう劇場に持たせるか
- 02 リニアの時間距離短縮の活用 .. 人を呼ぶという手段だけでなく、創造活動にどう生かすか
- 03 施設の専門性と多機能性 ..... 飯田周辺エリアを主対象とし「主目的+専門的の小ホール」の考え方



**話題提供 | 若者たちの願い - 日常的な居場所にしたい**

桑原利彦委員からの話題提供として、昨年9月に実施された「BUNKAミーティング」での若者たちの生の声が紹介されました。「いろんな人たちと出会う場所にして欲しい。新しいものをちょっとやってみたいと思ったときに、それを実現できる場所」

**意見交換 - 新しい文化会館に必要な活動とは**

5つの班に分かれて、舞台芸術(施設)の視点と地域づくりの視点で意見交換。新しい文化会館に必要な活動について「日常の中にある文化を介して、人と人がつながっていく。地域の中心で市民が文化的なものに巻き込まれていく」という「飯田らしい文化施設」のイメージが共有されました。

**小さな日常を取り込む (1班)**

これまでの文化会館は、大人数が集まる大きな活動が多かった。これからの時代は、様々な分野の小さな活動がたくさんあることも大切。非日常の中に日常をどうやって取り込んでいくのが、新しい文化会館に求められているのではないかと。

**非日常を取り巻く日常 (2班)**

日常と非日常を外・中・内の空間的な視点から捉えて、外では楽器を演奏したり、踊ったりする広場。中には、コーヒーを飲んだり、しゃべったりする多目的な空間。さらにその内側には、専門的なホールで非日常の特別な世界が広がっている空間をイメージした。

**楽しみが育つ場所 (4班)**

若者男女、家族連れも来て、そこでやっていることでつながる。興味を持ったら自分もやれるような場所。自由で楽しみが育つ場になって欲しい。

**まちとのつながり (5班)**

飯田下伊那の伝統芸能などの情報発信や研究の場になる。コンサートの後には美味しいものが食べられるようなまちとのつながりがあったりするも面白い。

**人形劇や公民館活動など、「飯田らしさ」と呼ばれるものが続いてきた理由は、やらされているからではなく自分たちが「楽しんで」、「面白い」と思えるから。**

**「つくるんじやなくて、できていくことを大切にしたい」**

という地域づくりへの思いが意見交換会の中で話されました。基本構想の策定も「つくる」のではなく、みんなでつくりあげてきていく。そうした飯田らしいボトムアップの積み上げによる議論が重ねられています。

18~20ページ  
基本理念  
基本方針

18ページ  
基本理念

飯田らしい「公共劇場の役割」を考えてみると・・・  
**ひとを育み まちを育み 活力を生み出す**  
人を元気に・まちの活力・波及効果

# TOWARD THE NEXT STAGE

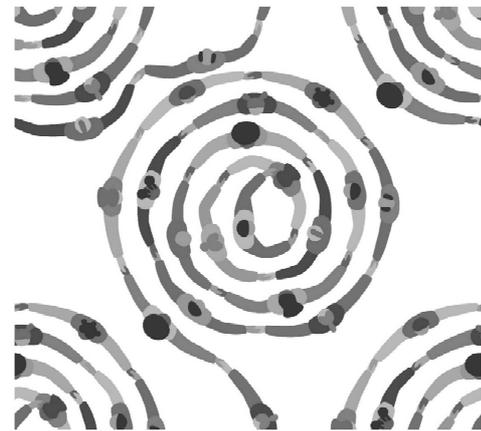
みんなで作る「新しい文化会館」の取組状況をお届けします

## 飯田文化会館 ニュースレター

2023.06  
Vol. 5  
TAKE FREE

### 第6回 飯田市新文化会館整備検討委員会

みんなが集い、創り、伝える感動の飯田ひろば



#### 意見交換

飯田らしい表現活動とは? 話題提供から見えてきた「飯田らしさ」ありのままの飯田の芸術性・社会的役割について、委員が5つの班に分かれて、具体的に議論を深めました。

#### ムトス精神の根付きを飯田らしさに (1班)

飯田市は外からの文化を取り入れ、自分たちなりに工夫し守りながら付加価値をつけ、発信することを大事にしてきた。リニアが来て都会との距離や時間の短縮になることで、大きなものがたくさん入ってくる。それでも飯田のスタイルは維持され、文化は継承されていくのではないかとムトスの精神が根付いていることが、飯田らしさにつながるのではと感じる。

#### 地域内外の専門家とのつながりを (2班)

飯田の文化は全国でも先陣を走り、県外・海外から移住し飯田を拠点に世界で活躍するプロがいることも、飯田らしさと感じる。一方、文化芸術に携わりレベルアップを求めている人は飯田を出て、学び、戻ってくることもある。今後はリニアの駅も活用し、専門家やプロの方との交流の機会をつくり、レベルアップの機会をすることが新文化会館の役割になってくれたら良い。

#### バランスを保ちながら実を大きく (3班)

市民の意見や思いを、すべて受け入れてしまっても偏りが出してしまうので、意見を聞きながらも、地域性を大事にしてバランスをとることが大切。小澤氏の「公共のものは作るものではなく、実になっていくもの」という言葉に共感。市民の意見を聞きながら、一つひとつ、実を大きくしていくことが大切。

#### 民間主体の活動を、行政が支える (4班)

人形劇を振り返ると、人形劇カーニバルは行政主導で20年。現在のフェスタは民間が主導。民間主導でも行政のバックアップがあったから続いているが、やはり行政が前へ出ていたら文化は育っていかないと感じる。

#### 自然と足を運びたくなる文化会館へ (5班)

文化とは遊びからきている。落語、浄瑠璃、歌舞伎もそう。新文化会館は、楽しく遊べて自然と人が集まる、そんな場所であってほしい。

昔はすごい人がいた。カスミアおじさん・おばさんがいて、人が集まり文化が育まれる。人を育てることが大事。



発行:令和5年7月 制作:新文化会館 〒395-0051 長野県飯田市高野町5-5-1 TEL 0265-23-3552 FAX 0265-23-3533  
新文化会館の整備検討に関する資料は、飯田市のWEBサイトで公開しています。 <https://www.city.ita.jp/> 新文化会館 編集

4~6ページ  
2 策定の背景  
3 策定の考え方

## 51ページ (1) 検討経過



### 5/19 Fri 第6回 飯田市新文化会館整備検討委員会

#### 飯田らしい表現活動とは ～これまでとこれから～

はじめに、即席までにまとめられた「飯田らしい公立劇場の役割」について振り返りました。その後、検討委員会の市民委員と学識委員からの話題提供をもとに、飯田らしい表現活動とは何か、意見交換がされました。

## 4ページ 2 策定の背景



#### 話題提供

飯田らしい表現活動のこれまで

#### 飯島 剛 委員

元 飯田中央美術専門学校 副校長  
元 飯田文化会館 館長

#### 外からの文化を自分たちのものにしていく精神性

飯島氏は今までの経験から、「飯田下伊那には、様々な民俗芸術があり、続いている素地がある。新野の益岡りや人形浄瑠璃、地芝居など、元々この地になつたものを暮らしの中に取り込み、必要なものとして定着させてきた。日常と文化をつなぎ、優しい自然の中での心の豊かさや誇りを求め、続いてきた伝統がある」と振り返り、飯田発祥ははたなくとも様々な文化を伝承し、取り入れていく精神性があると話します。

#### 集い、つながり、広げていく 関心のない人たちにも広げる意識を

また、いい人形劇フェスタ(以下、フェスタ)やオーケストラと友に音楽祭(以下、オケ祭)など、市民がづくりに上げていく文化を通じて「人を育てまわすところ」という思いが、言わなくても共有されていることが飯田らしさだと話す一方、課題として「小さな日常を取り込んだり、人が集まりつながりたいていく時に、関心のない人たちにも広げていく意識を持たなければならぬと感じる」と、話しました。

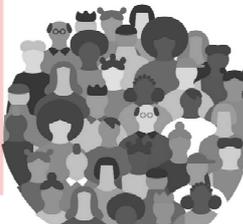
#### そして市内で活動する演劇集団「演劇団」を例に挙げ、演出家などの専門家に滞在してもらう、地域を題材とした作品をつくるなどの活動を続け、広がりを促していることを紹介したのち、「フェスタやオケ祭などはまだまだ日常とつながっていないことが課題に感じると話しました。

#### 一人ひとりが文化の担い手

そんなまちなってことが理想

また別の視点から、「人形劇では、人形劇カーニバル飯田の時はプロ劇団と行政の連携が難しく、様々な意見がある中で野余曲所を経て、現在のフェスタは市民が主体となっている。専門家の中では地域とつながる必要性を感じている人もいて、そんな人たちの力を借りながら、これからのまわすに必要なたらに住民や企業と共に考え、行政としても支援のあり方を考えていくことが重要」と話します。

最後、飯島氏は「人口が減る＝文化の担い手が減るということ。これからは、一人ひとりが文化の担い手として何から活動している、そんなまちなってことが理想であり、「近き者よこご、通き者来たる」と、表現されました。



## 5~6ページ 3 策定の考え方

#### 話題提供 | 飯田らしい表現活動のために

小澤 優作 学識委員 竹南市総合文化ホール グラフタクト(大分県) チーフアドバイザー

#### 事例から見る、これからの表現活動とは

小澤氏はプロデューサーを勤められていた上田市交流文化芸術センター(サントミュージーゼ)の基本理念「人にやさしい 夢と未来を紡ぐ 創造都市ラスタ」(約束)を挙げ、「ひと」「文化」「まち」「施設」の4つの育成に取り組みサントミュージーゼの取り組みを紹介しました。

「人」が育つことは、「まち」が育つことへとつながる

鑑賞、創作・発表、交流を通じた様々な育成の取り組みが、市民による歴史ある伝統文化の継承や、新たな文化の創造を促し、醸成された地域文化を継承するとともに、まちのにぎわいや活力を生み出す観点として、魅力あふれるまちづくりへの架け橋となる。

サントミュージーゼの2つの柱

- 1 芸術家ふれあい事業 役割を重視した活動 | 地域とホールとの連携  
アーティストや専門家が市民と交流し、様々な活動を生み出している事業。音楽の場合は、地域プログラム・ホールプログラム・創造プログラムによって地域とつながり、演劇などの場合は、地域資源を活用して作品をつくり、活動の様子を動画サイトで配信するなど全国展開し、市街地の活性化にもつながっている。
- 2 連携推進事業 大ホールでの活用 | 鑑賞事業を重視した活動  
オーケストラや合唱団の劇場、民間プロモーターと連携し、大小様々な作品を呼べるようにしている。

アウトリーチ事業(芸術家ふれあい事業)

普段文化芸術に触れることが少ない皆さんに対し、身近なところで体験できる機会を提供することを「アウトリーチ」といいます。サントミュージーゼでは、持続可能な施設運営を回ろうと、利用者と同様に観客も増やす「劇家」に向け、アウトリーチ事業に取り組んでいます。上田市教育委員会と連携して、上田市内の小学校の教室でプロ演奏家による「クラシックコンサート」を実施。また、高校演劇班(部)を対象に「実験的演劇工房」を実施し、日本を代表する劇作家や演出家を迎えて、指導を受けたら作品制作に取り組みしています。

話題提供まとめ

佐々木 宏幸 学識委員 明徳大学 教授

氏の話題提供を受け、佐々木氏は自身の解釈として「飯田市のこれまでとこれからの2つの視点から見た時、すでに飯田市の立場を行っていたとして、飯田らしさを3つのポイントにまとめました。

飯田らしさ 1 外からの文化の吸収と展開してきた背景

飯田らしさ 2 日常と文化とのつながり

飯田らしさ 3 専門家とのつながり

佐々木氏は「飯田の様々な活動が上田市の事例と同様に、地域からの発信、地域のマネジメント、普及活動などが市民によって行われてきたと感じる。「アートを起爆点としたイノベーション」文化政策はもはや芸術文化のためのものではないといったこの時代文化に対するニーズが、すでに飯田で展開されている。このような文化を今後どう広げていくかという視点を持ち、住居・企業・行政で支え合うことが非常に重要」と話し、芸術性・社会的役割は自分たちで設定しなければならぬ「飯田らしい表現活動・文化活動を設定するための必要性を付け加えました。

18ページ  
基本理念

21~  
23ページ  
3 実施する  
事業の方向性

4~6ページ  
2 策定の背景  
3 策定の考え方

# TOWARD THE NEXT STAGE

みんなで作る「新しい文化会館」の取組状況をお届けします

## 飯田文化会館 ニュースレター

2023.08  
Vol. 6  
TAKE FREE

18~  
20ページ  
基本理念  
基本方針

学識委員からのコメント

飯田市では多様な芸術文化が定着、発展、継承されていることを実感  
小澤 雄作 学識委員

「非日常的」「使い勝手の良さ」両面を備え賢く共に活性化していけるような施設に  
山元 浩 学識委員

文化会館は「大きな公民館」という話をした。決して豪華である必要はないと思う。ただ、このホールはどういう目的で活用されるかなどある程度の主目的を持ちながら、一方で多機能な部分を持つ必要もある。

自治体が公立のホールを作るということは、設備的に差別、区別化できる形が必要であり、民間の皆さんの力を失うことなく、共に活性化していけるような施設であるべき。

いいホールは決して豪華である必要はないが、お客さんから見て「非日常的なホール」でもあっても、若干そういう部分が必要。しかし、裏では豪華感を透かす必要はない。飯田の皆さんは両面を考慮する必要がありますのでそのバランスを考えた具体的な話を進められたらと思う。

文化会館は「大きな公民館」という話をした。決して豪華である必要はないと思う。ただ、このホールはどういう目的で活用されるかなどある程度の主目的を持ちながら、一方で多機能な部分を持つ必要もある。

自治体が公立のホールを作るということは、設備的に差別、区別化できる形が必要であり、民間の皆さんの力を失うことなく、共に活性化していけるような施設であるべき。

いいホールは決して豪華である必要はないが、お客さんから見て「非日常的なホール」でもあっても、若干そういう部分が必要。しかし、裏では豪華感を透かす必要はない。飯田の皆さんは両面を考慮する必要がありますのでそのバランスを考えた具体的な話を進められたらと思う。

「日常と結びついた機能性や空間性」が多くの意見に共通していると感じた。印象に残った言葉が「大きな公民館」という日常性、メインホールとサブホールのような構成はほぼ共通の意見として持っているが、全体として大きな公民館的な日常性は面白い。また、「工房」も「ものづくり工場」といった空間としてはニュートラルだけど、そこで創作活動が起こるような空間性が、今までの議論の印象と私の中で非常に繋がった。

「日常に作っていくという意味でのアーティスト・イン・レジデンス」というのも着目されている作り方。また、公園や広場など屋外、屋外の空間も日常と結びついた機能性や空間性に繋がって、学生が利用する想定も日常との結びつきという部分に繋がっている。

そういったものを空間として作っていく際、外から見ることでできる、触れられる、共有するなど、日常的な実感が生まれる。そのような空間がまさに「大きな公民館」という全体を語る一つのキーワードになる、という印象を持った。

飯田の皆さんは芸術や文化に精通されているというのが率直な感想。だからこそ文化会館が表現できる機能を持つと同時に、色々な人に広く知れ渡る場所になればいい。

自分たちの日常の出来事や習慣を、どのように空間に繋げていけるかという議論が新鮮だった。

飯田のいいところは人の温かさや文化の多様性だと思う。そういうものが現れる文化会館になればいい。

文化会館という一つの施設を作るのだから、様々な分野の方が意見を話し合っていることに驚いた。

発行:令和5年8月 制作:飯田文化会館 〒395-0051 長野県飯田市高野町5-5-1 TEL 0265-23-3552 FAX 0265-23-3533  
新文化会館の整備検討に関する資料は、飯田市のWEBサイトで公開しています。 <https://www.city.hida.lg.jp/> 新文化会館 11



51ページ  
(1) 検討経過

Report WorkShop

7/7 Fri 第7回 飯田市新文化会館整備検討委員会  
基本理念・活動を実現する機能、空間とは

前回、「飯田らしい表現場」について共有されたイメージ

●外からの文化を取り入れる空間として育芽 ●日常と文化とのつながり ●専門家とのつながり

今回のテーマは、「基本理念・活動を実現する機能、空間とは」。これまで委員会が出された右のキーワードを踏まえ

●鑑賞 ●創造 ●交流 について、飯田らしい機能や空間のあり方を議論しました。

今回、共有された意見

- 日常と結びついた機能性や空間性 …… 半屋外(公園・広場)、屋外の空間
- 創作活動が起こるような空間性 …… 工房、ものづくり工房
- ▶▶▶ 大きな公民館 「非日常的なホール」と「使い勝手のいいホール」のバランス

飯田ひろば

基本理念(仮) みんなが集い、創り 伝える 感動の飯田ひろば

(みんなが) 集う	創る	伝える	感動する
語り合いの場 出会う場 つながる場 幅広い世代の声がかえる場 多様性を認め合う場	練習の場 学びの場 体験の場 楽しむ場 自主活動・協力の場 文化を創造する場	「みる、感じる、かさえる」 文化を育む 人を育てる場 吸収し、継承し、発展させる力 発信する場	発表の場 感動する場 感動する場 心を満たす場 本物に触れられる場 感性を磨く場
大倉 講義会 研修会 初心者向け公演 異なる広場に 実行委員会(飯田方面)	創作活動 創作 自主事業 ワークショップ	伝統芸能の伝承 運営ノウハウの継承 活動を通じた人材育成 広報・情報発信	音楽公演 人形劇公演 演劇公演 (ほか芸術公演 (観客・出演者の感動) 運営スタッフの感動)

キーワード

求めること

交流 3  
■ どの交流があるか? ■ どの人が集まる? ■ どの人種(年齢)があるか?

創造 2  
■ どのことがしたい? → どの価値(空間)がある?

鑑賞 1  
■ 何を観たい(ジャンル)? → どの環境(観)で?

21~  
23ページ  
3 実施する  
事業の方向性

意見交換 基本理念・活動を実現する機能、空間とは?

委員が5つの班に分かれて、具体的に議論を深めました。

メインとサブの複数のホールが必要。各ホールの専用性、汎用性をどのように作っていくか。

何ぞと観たい観たい観たいの二重三重で考える視点が必要であり飯田らしさは、創造的な機能・活動から生み出していく視点が必要。

それとそれジャンルにも対応できる多様な機能・空間のあり方。

普段、文化芸術に触れていない人にどうアプローチするか。

市内を見つけた時にそれがホールとしての「新文化会館」の役割になるはず。

1 鑑賞

鑑賞活動が起るような空間性 …… 工房、ものづくり工房

何心によって快適なゆくりのある空間、施設に、四角い部屋でいろいろなことにステージができる部屋があってもいいのでは。

何心によって快適なゆくりのある空間、施設に、四角い部屋でいろいろなことにステージができる部屋があってもいいのでは。

2 創造

鑑賞活動が起るような空間性 …… 工房、ものづくり工房

何心によって快適なゆくりのある空間、施設に、四角い部屋でいろいろなことにステージができる部屋があってもいいのでは。

何心によって快適なゆくりのある空間、施設に、四角い部屋でいろいろなことにステージができる部屋があってもいいのでは。

3 交流

鑑賞活動が起るような空間性 …… 工房、ものづくり工房

何心によって快適なゆくりのある空間、施設に、四角い部屋でいろいろなことにステージができる部屋があってもいいのでは。

何心によって快適なゆくりのある空間、施設に、四角い部屋でいろいろなことにステージができる部屋があってもいいのでは。

24ページ  
(2) 施設機能の整理

TOWARD THE NEXT STAGE

みんなでつくる「新しい文化会館」の取組状況をお届けします

飯田文化会館 ニュースレター

2023.10  
Vol. 7  
TAKE FREE

伝える 集う 創造支援機能 創る

育む 交流促進機能 鑑賞機能 管理運営機能

感動の 飯田ひろば

「新しい文化会館」の取組状況をお届けします

51ページ  
(1) 検討経過

24ページ  
(2) 施設機能の整理

学識委員からのコメント

日常に寄り添い 次の時代を切り拓く存在に

著者の利用が ホールの活性化、町の賑わいを創出

使い方をイメージしながら 能動的な議論が展開されている

新しい劇場ができるということは、その町の日常に寄り添う劇場がそこにできるといえる。「集う」「観る」「伝える」「育む」が、自然とつながり、活気ある町を切り拓く存在になっているのか、そんなことを感じさせられる会だ。

今までの検討委員会で積み重ねた意見がまとまって、ワクワクするものになってきている。あと数回の検討委員会、夢のある構想へと発展していけたらと思う。

新文化会館の整備検討に関する報告・意見交換会(利用団体)

7月11日から5回にわたって、飯田文化会館を利用する団体の皆さんとの意見交換会を飯田文化協会と共に開催しました。延べ20名(17団体)の方にご参加いただきました。

これまでの検討状況をお伝えした後に意見交換を行い、「舞台機構の充実」「舞台と対応できるリハーサル室」「鑑賞スペース」など、検討委員会と同様のご意見が多かったです。

飯田文化会館 今昔物語 vol.4

50年前の開館時には、結婚式場としても利用されていた飯田文化会館。

現在の2階会議室は、セシム二会場として、2階講習室は、読書会会場として、多くの花嫁花婿の門出の場所として利用されていました。

昭和51年10月に行われた下井さんご夫妻の結婚式・披露宴

発行:令和5年10月 制作:新文化会館 〒395-0051 長野県飯田市高野町5-5-1 TEL 0265-23-3552 FAX 0265-23-3533  
新文化会館の整備検討に関する資料は、飯田市のWEBサイトで公開しています。 <https://www.city.ijida.lg.jp/> 新文化会館 100

51ページ  
(1) 検討経過

18~  
20ページ  
基本理念  
基本方針

Report Workshop

9/5 Tue 第8回 飯田市新文化会館整備検討委員会  
飯田らしい施設と事業  
～基本理念・活動を実現する施設機能と必要とされる事業とは～

今回は、これまでの検討委員会が積み重ねてきた議論の内容に加え、7月に実施した飯田文化協会を利用する団体の皆さんとの意見交換会(飯田文化協会共催)で出された意見も反映した、基本理念・基本方針(案)を提示しました。

その後、前回議論した「鑑賞」「創造」「交流」を実現する機能や空間のあり方を振り返り、それらにさらに深掘りした意見交換を行いました。

新しい文化会館の基本理念 **みんなが集い、創り、伝える 感動の 飯田ひろば(仮)**

芸術文化の拠点 **感動の 飯田ひろば**

集う 観る 創る 育む 伝える

新しい文化会館の役割 **「ひと」を育み 「まち」を育み 「活力」を生み出す**

飯田らしい文化施設(新しい文化会館)の5つの基本方針(案)

- 1 集う …… 飯田伊下野の地域の皆さんを主な対象として、誰もが集うことができる芸術文化施設を目指します。
- 2 観る …… 地域の皆さんが優れた芸術文化に触れ、心が満たされる鑑賞の機会を提供します。多様な分野の質の高い舞台芸術の公演を実施します。
- 3 創る …… 飯田の新しい芸術文化を地域の皆さんが集まって創り出す拠点施設となることを目指します。
- 4 伝える …… 自分たちの創り上げた作品を人々に発表・発信することや芸術文化を介してのコミュニケーションを行います。また、伝統芸能の伝承やこれまでの文化活動を継承するとともに、積極的な情報発信をします。
- 5 育む …… 芸術文化活動の実演者や支える人材を育成するとともに、得た芸術文化活動の担い手が育つ環境を整えます。さらに「まち」を育む施設となることを目指します。



意見交換 基本理念を実現するために必要とされる、具体的なコト(事業・活動)は?

5つの組に分かれて、議論を深めました。

感動の飯田ひろば

コトを定める	集う	観る	創る	伝える	育む
■誰が、どう集う? ■どんな交流?	■誰が、何を観る? ■どんな鑑賞?	■誰が、何を創る? ■どうやって創る? ■どんな創造?	■誰が、何を、どうやって伝える? ■どんな発表、発信、普及?	■誰が(誰を)どうやって育む? ■どんな育成?	
施設機能	1 鑑賞機能 ホール (メイン・サブ)	2 創造支援機能 スタジオ、リハーサル室 作業室	3 交流促進機能 カフェ、広場	4 管理運営機能 事務室、機械室	

需要と供給のハブになる事業の充実を(1班) 市民主体の活動のノウハウを活かして(2班)

「集う」ための企画と、サポートする機能を(3班) 舞台と中身の両方を市民が育む場所(4班)

「集う」を意図して企画し、仕掛けていくことが大事。よその人、地元の人、関係のない人に向けた「集う」ための機会を作り、「集う」をサポートするサブホール、スタジオ、リハーサル室を、どれだけきちんと整備できるかが重要。

また、「大きな役割」をイメージする場合は、誰でも簡単に使えるように、サポートする機能も必要。集い、交流することで相互理解が深まり、広がっていくと思う。

どんなものを作りたいか、より、どんな使い方をしたいか。建物が大きすぎて十分に使えていない、ということがないように、どんな人々を呼んで、何ができるのか。舞台と中身の両方が取れ、観る、演じる力を育てることが大事。市民が育つ機能を併せ持つ場所であることが望ましい。

少子高齢化の時代、どうやって芸術文化に親しむかは、建物以外の部分にもっと視点を広げて学ぶことが必要。

まずは楽しむ。その先に「育む」がある (5班)

関わる人が楽しむことが「育む」につながる。市民が実行委員という形式が現在の文化会館の支えになっている。一方、実行委員会のメンバーの固定化や重複して関わっている課題もあり、もっと広がりがあったとしても良いと感じる。どうやっていけば良いか市民で考える場や、少し高いところからみる組織も必要では。

21~  
23ページ  
3 実施する  
事業の方向性

24ページ  
(1) 施設整備  
の方向性